

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

7

No.725

今月は
“社会を明るくする運動”
強化月間だよ!

特集……P2

「東日本大震災」被災地支援 被災者の暮らしの今 ～現地レポートから見えること～

みんなでつくるひょうごの福祉……P6
自治会・商店街と一緒につくる
地域の見守り活動と交流拠点
～芦屋市打出商店街を中心としたモデル地域の活動～

応援します!ボランティア・NPO活動……P7
「しゃらく」印象的な響きでブランド化
～ネーミングにも仕事にもこだわりを～
特定非営利活動法人 しゃらく

地域を駆ける!ワーカー物語……P8
まちづくりへの思いをつないで育てる^{はぐ}
三木市社会福祉協議会 坂本 幸枝さん

教えて!福祉の相談窓口 第14回……P9
生活福祉資金の相談窓口②～貸し付け中の支援～

県社協ニュース……P10

愛ちゃんと希望くんの共同募金NEO……P11
みんなの広場

「東日本大震災」被災地支援 被災者の暮らしの今 ～現地レポートから見えること～



気仙沼市内の仮設住宅

気仙沼で見たこと・感じたこと
現地からのレポート

災害ボランティアセンターの活動から
浜上章(兵庫県社会福祉協議会)
5月30日～6月7日、気仙沼市災害ボランティアセンターで活動

●泥だし・片付けだけでなく、生活課題への対応も
災害ボランティアセンターに寄せられるニーズは、泥だしだけでなく、床ががしや洗浄、拾得物の仕訳、移送、引越などの生活・福祉ニーズも多くなっています。ボランティアの多くは水害をイメージしており、今後は個別の幅

広いニーズに答えられるボランティアの募集と調整が必要です。
避難所では、長引く不自由な生活でストレスを抱え、親子関係や住民間の人間関係、健康への影響が出てきています。また、仮設入居が決まった人とそうでない人で感情の摩擦が生まれてきています。さらに、夏場に向けて暑さだけでなく、ハエウモなどの虫よけと食中毒の対策が必要になっています。
●「何もすることがない」の声
「つながりと役割づくりが課題」
仮設住宅では、住民間のつながりや自治会の立ち上げ、集会所の活用などの支援が必要になっています。
「以前は、毎日畑仕事をしていたけど、仮設に移り住んで何にもすることがない」と辛そうな顔で語る80歳代の女性の言葉が印象に残っています。
また、市内で最初にできた仮設住宅の管理人からは、「いろいろな地区から入居しているため、不審者がいても分からない。早く自治会を立ち上げたい」との悩みを聞きました。「この話を受け、早速、仮設住宅の集会所で市社協主催の「お茶っこ飲み会」が開催されました。その際、阪神・淡路大震災時の仮設支援の経験話をしました。参加者の中には今まで溜め込んでいた感情を出して涙



仮設住宅の住民が集まった「お茶っこ飲み会」(6月5日撮影)

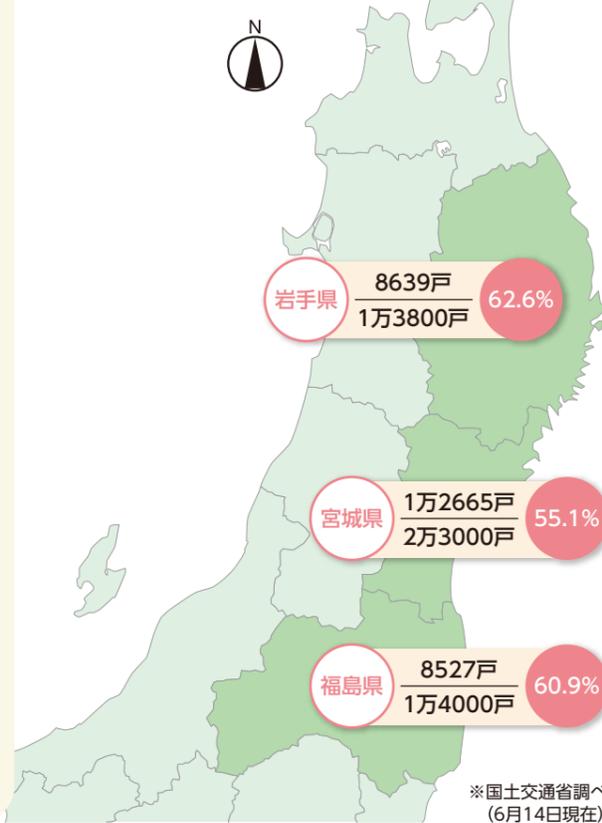
される方もおられました。初めての「お茶っこ飲み会」は、住民同士が被災当時のこと、今の生活の状況を話し、和やかな場となりました。さまざまなものを通して入居した人たちが、分かち合い、支え合いの関係を築くことができると願っています。
●市社協への継続支援を
社協事務所が崩壊し、役員会の会場確保すら難しい、決算もできない厳しい状況の中、市社協は会長をはじめ、職員が懸命に災害ボランティアセンターの業務と法人組織の立て直しに尽力されています。住民の暮らしの支援と地域の再生へ向け、新しい復興課題に対応する市社協への継続した支援が必要です。

●6月中旬ようやく水道復旧
気仙沼市の特養「春園苑」では、災害発生後、通常電話も災害用指定電話も使用できず、通常電話は4月30日に復旧したところです。
同苑は標高25mの海岸高台にあり、そこに21mの津波が襲いかかりました。その跡は生々しく今も残っています。特養の職員一人が、防火査察中に津波に遭遇して亡くなっています。
電気は3月末まで停電、水道はようやく6月13日に一部開通しました。
●震災関連死にならない施設内死亡者
同苑は定員50人の特養ですが、震災から約3か月しか経っていないのに入居者9人が亡くなっています。これは同苑では通常の一年間に相当する数と同じでした。
阪神・淡路大震災時も、老人福祉施設では例年になく多くの高齢者が亡くなりました。もの言わぬ老人、もの言えぬ老人の死は震災関連死にカウ

社会福祉施設への支援から

中村大蔵さん(阪神共同福祉会理事長)
5月30日～6月1日、4度目の被災地入りで気仙沼市の特別養護老人ホーム「春園苑」へ

表 仮設住宅の整備状況



被災地の暮らし再建の歩み
震災から3か月以上が経過した今なお、多くの住民が避難所での生活を余儀なくされている。その数9万109人、岩手、宮城、福島の3県で6万8068人に上る。
一方、仮設住宅は必要戸数の半数が完成し、市町村によっては被災住民の入居がすべて完了して避難所が解消されたところもある。仮設住宅の整備状況は表のとおり。岩手県と福島県では7月、宮城県では8月中旬の完成を目標に掲げているが、被災が甚大で用地確保が難航している市町村もある。
宮城県の状況を見ると、石巻市、気仙沼市、女川町、南三陸町の2市

2町ではまだ建設用地の確保調整が続いている。また、避難者数が100人以上の市町が8市9町、1000人以上が5市2町ある。
暮らしの再建に向けた課題は住居だけではない。厚生労働省は、震災で被災した岩手、宮城、福島県の失業者数が前年同期比2.4倍の計11万1573人になったと発表した(5月末)。農業・漁業などの個人事業主はこの数に含まれていない。
「避難所」、「仮設住宅」、「在宅」、「医療・福祉施設」などそれぞれの暮らしの場で、被災者は今、どのような状況に置かれているのか。次に、宮城県気仙沼市で支援活動に携わっている人々のレポートから、被災地の暮らしの現状とこれからの支援を考えたい。



東日本大震災から3か月が経過。
被災地では今なお8000人が行方不明、9万109人もの住民が避難生活を送っている。

こうした中、兵庫県内の社会福祉協議会は宮城県への支援を継続しており、延べ1218人、実数149人の社協職員を被災地の災害ボランティアセンターへ派遣している。5月末からは派遣先を気仙沼市に絞り、被災地の人とのつながりを重視した支援を模索している。
今月は、特に気仙沼市における被災地での住民の暮らしと支援活動を中心に紹介し、これからの支援を考える。

※記事は記載がない限り、6月10日現在の状況を掲載。

ントされませんでした。私はこの死を『深層死』と名づけました。今、東北にも同じことが起っています。

職員が家族もるとも施設に避難するなど、阪神・淡路大震災の時には考えられなかったこともあり。同苑では職員と家族が最大11人、今なお3人が同苑での避難生活を余儀なくされています。そのほか、定員を超えていること53人の緊急避難者を受け入れていました。

なお、他府県から同苑への介護支援ボランティアは、6月末までに東京・群馬・神奈川県から延べ1243人となっています(予定含む)。

※数字はすべて6月16日現在



特養「春園苑」のそばまで迫る津波の跡

チームによる支援を行っています。中学校講堂には最大300人以上、現在は約100人が避難されています。また、校庭に仮設住宅が建ち、約150世帯が入居しています。

当初は避難所の環境改善や自治組織づくりの支援を行いました。避難所内を自治会単位で区分けをしてリーダーを選出し、生活ルールをつくっていたり、お茶会をして住民の交流の場をつくりました。拭き掃除用に新聞紙をちぎる作業など、認知症高齢者を含めてみんなが役割をもつことができよう工夫しました。

次に、在宅避難者の巡回訪問を行いました。訪問すると、災害で圧迫骨折をして治療しないままになっていた高齢者、末期がんの方など、支援を必要とする住民がおられました。報道では避難所や仮設住宅がクローズアップされますが、在宅の方も被災者です。

■医療・保健・福祉の連携状況はどうでしたか

当初は医療・保健・福祉関係者の連携の場がありませんでした。このため、面瀬中学校の避難所では、医療・福祉専門職と行政や地元保健師、民生委員、学校関係者などによる全体ミーティングと専門職のケアミーティング

気仙沼で見たこと・感じたこと
突撃インタビュー

澤田 和也さん、岡田 憲治さん、小園 幸司さん(いずれも福崎町役場)
5月6日〜28日の間、兵庫県が設置した現地支援本部メンバーとして、それぞれ気仙沼市で避難所運営を支援

■避難所支援員としての活動内容を教えてください

主に避難所の実態調査です。5月6日時点で市内に50か所以上の避難所がありました。すべての避難所を、私たち避難所支援員と市社協の災害ボランティアセンターのスタッフが分担し、調査シートに基づいて巡回調査を実施しました。避難所では、代表者の話を伺い、様子を見て実態把握に努めました。

■実態調査を通して

どんな課題が見えてきましたか
避難所の代表者からの要望そのものは少なくなっています。避難所生活が長くなり、落ち着きつつあるということ。ただ、仮設住宅へ移る住民がいる中、避難所に残る方々にとっては、ストレスや不安の増大が懸念されるため、さらなる心のケアが必要になってくるでしょう。仮設住宅と避難所と在宅



陸に残る大型漁船(6月1日撮影)

をはじめました。6月から市内医療職のミーティングが始まっています。

医療保健・福祉関係者だけでなく、ボランティア活動者も参画できるネットワークづくりが課題だと思っています。

■6月以降の主な活動は

避難所と在宅被災者への継続支援に加え、仮設住宅でのコミュニティ再構築の支援が本格化します。具体的には、お茶会や健康相談などを通して集会所の積極的な活用を進め、自治組織づくりにつなげていければと考えています。また、手作りの小物を販売するなどコミュニティビジネスを通じた役割づくりも有効です。さらに、男性への料理教室や、津波で車両など移送手段をなくした被災者のための移動市場など、必要なものはいくらでもあります。重要なのは、これらを単に実施するだ

それぞれの避難者の間で、境遇の違いからくる感情のもつれもあり、実際に住民間でトラブルになった地区もあります。こうした際、ボランティアのかかわりや炊き出し、レクリエーションが被災者のストレス軽減につながっているという声も聞きました。特に、避難所でのマツサージは好評でした。

また、要望が少なくなっている背景には、「何度言っても同じ」という改善されない現実・対応の遅れに対する不満もあるようです。例えば、冷蔵庫や洗濯機、扇風機など避難所で共用する家電製品の調達が要望に上がりますが、整備が進んでいないようでした。

■避難所の環境はどうでしたか

ついでにや仕切りでプライバシー空間の確保をしたり、更衣室や子どもたちの学習室を設けたり、環境整備の工夫が行われています。ただ、食事についてはパラツキを感じました。3食あるところと2食のところ、炊き出しがあるところとないところがあります。

■これからの課題と読者へのメッセージをお願いします

気仙沼市ではまだまだガレキが残っています。また、ハエが大量発生しており、衛生面の心配があります。一方で、市職員へのサポートも必要で

けでは意味がないということ。住民のつながりや、地域ニーズをみながらの支援が求められます。

■これからの課題と読者へのメッセージをお願いします

まずは備えをすること。災害時には、地域も医療もなくなります。薬を服用している人は3回分の薬を首から下げておくなど、できる備えをしておきましょう。

このたびの大震災は阪神・淡路大震災の被災状況と異なります。しかし、「人間の営みを見る」支援に変わりはありません。経験知や支援を押し付けず、被災者の暮らしと心に土足で入らないこと、そして被災者に関心を寄せること。ボランティアとして何かしなければと思いがちですが、傍らにいて話を聞くだけでもいいのです。

被災地と兵庫県をつなぐもの
被災者が力を発揮できる支援

被災地での懸命な支援活動は3か月経過した今なお続いている。ボランティア活動は、泥だしや片付け、炊き出しから、仮設住宅への引越し支援、レクリエーションの提供や託児支



給水車による水の配給

す。市職員自身が被災しながらも、土日に黙々と仕事をしている状況です。特に伝えたいことは、テレビでみる以上に復旧が遅れているということです。3か月経過していますが、風景は変わっていません。まだまだ支援が必要です。一番良いのはボランティアとして被災地に出向くことではないでしょうか。みなさん、自分にできる支援を

黒田 裕子さん(日本ホスピス・在宅ケア研究会 副理事長)

被災翌日から被災地に入り活動。4月からは気仙沼市の面瀬中学校避難所を拠点に活動を継続

■4月以降の活動内容を教えてください

気仙沼市の面瀬中学校で、看護師・ヘルパーなど5人の医療・福祉専門職援、相談活動など生活課題に合った活動が展開されはじめている。ライブラインの復旧が進み、今後は雇用の創出や産業復興など、生活基盤づくりに向けた行政支援と民間のきめ細かな支援が必要になる。

また、兵庫県内でも具体的な支援先を絞って被災者に必要な物資を集めて送付したり、兵庫県に避難してきた人への物資提供や県外避難者同士の交流会を開催したり、活発な支援が行われている。

4月号以降、本紙特集では東日本大震災での被災地の状況と支援活動を取り上げてきたが、「支援の本質を改めて問われた3か月間であった。今時点で確実に言えるのは、甚大な被害を前に、被災地の変化に合わせた息の長いかわりかからこれからは必要であるということだ。かかわりの中から、私たち自身が学び、被災地と信頼関係を築くこと、これが支援の入り口になるのではないだろうか。また、信頼関係をベースにした息の長い支援のためには、個人の支援活動をつなげて共同の営みにする組織的な支援が有効であり、社協にその役割が今後も求められる。

みんなでつくる
ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする
取り組みを紹介します。



地域で暮らす人の孤立を防いで、安心して暮らせるように「安心生活創造事業」がモデル事業として全国各地で始まっているよ。芦屋市では、モデル地域を設定して、自治会、商店会と地域住民の「見まもり協力員」が一緒になって「芦屋市安心生活見まもり事業」を進めているんだって。

人と人がつながり、
地域ぐるみの見守りを

芦屋市の打出商店街を囲む春日町・打出小槌町・打出町・若宮町(約2000世帯)では、商店も協力した地域ぐるみの見守り活動がはじまっている。近年、マンションの建設や大型スーパーの進出などから地域の様子に変化が見られる中、人と人のつながりづくりや見守り活動の推進をめざし、芦屋市と市社協のモデル事業「芦屋市安心生活見まもり事業」に取り組みむことになった。高齢者等の見守り活動を行う見まもり協力員を住民の中から養成するとともに、住民の生活に根ざした活動につなげようと住民アンケートを実施し、自治会や商店街とともに事業の進め方を検討してきた。

商店街だからできること

「私たちも店を一步出れば地域社会の一員」と打出商店会の金田会長は語る。「地域に密着した商店街だからこそ、住民の困りごとにすぐに対応できる」。打出商店街では、

自治会・商店街と一緒につくる
地域の見守り活動と交流拠点

～芦屋市打出商店街を中心としたモデル地域の活動～



「まごのて、打出いこいの場」の開所式の様子

供により、「まごのて」打出いこいの場も今年6月にオープン。まごのてには、見まもり協力員が常駐し、子育て中の方や高齢者などの相談に応じるほか、福祉や地域内の情報が集められ、子どもから高齢者まで幅広い住民の交流拠点をめざす。

地域住民の居場所と
活動の拠点へ

6月13日には、まごのての開所式が行われ、自治会、活動に協力する店舗関係者をはじめ子どもたちも集まり、大変盛況であった。見まもり協力員も、「一人でもこのまちに住んで

見まもり協力員が活動するたびにポイントをつけ、店舗ごとの特典サービスで地域へ還元することとした。また、商店街からの空き地提

良かったと言ってもらえることをめざして活動したい」と、今後の意気込みを力強く語る。
今後、まごのてを拠点に協力員による訪問活動も本格化させる。まごのてのオープン後、さっそく、何か力になれることはないかと活動を希望する住民が訪れたり、高齢者が相談に訪れたりしている。地域を良くしたいと思う住民の力が集まる拠点から、新たな地域のつながりが芽生えている。

取材を終えて

地域のつながりの希薄化とともに、商店街の衰退は、住民の生活にまで影を落としています。遠くまで足を運べない高齢者には、地域に密着した商店が生活の要であり、店員や客同士の会話が交流の役割も果たしてきました。そんな商店街と協働した活動は、地域のつながりづくりに大きな効果が出ることでしょ。これからも、地域への愛着を原動力に、みんなの力で活動を発展していくことが期待されます。

芦屋市社会福祉協議会 安心生活見まもり事業担当
☎0797-32-7530
「まごのて、打出いこいの場」 阪神打出駅下車 南へ90m
(商店街の南出口付近の西側)

「しゃらく」印象的な響きでブランド化
～ネーミングにも仕事にもこだわりを～

「生きがいらく」とサポート
センター神戸西NEXT
運営を通じたNPO支援

「若手がNPO業界に入る条件は、食べていける」と「しゃらく」は語る。「しゃらく」代表理事の小倉譲さんは語る。「そのためには、NPOにもチーム戦略やマネージメントが必要。将来への不安がなくなれば、若者がNPO活動やソーシャルビジネスに取り組み、活動の裾野が広がっていく」という信念のもと、「しゃらく」は「生きがいサポートセンター神戸西NEXT」を運営し、「ソーシャルビジネスに真剣に取り組んでいる人」の支援に取り組んでいる。

具体的には、NPOの法人設立・運営の支援として各種相談に応じたり、講座を開催するほか、無料職業紹介を実施している。
旅はリハビリになる！
「しゃらく」が担うソーシャルビ



旅の支援が一生の思い出に

ビジネス支援は、高齢者の旅支援といつ「しゃらく」自体のソーシャルビジネスの取り組みに裏打ちされている。

もともと「NPO法人しゃらく」を立ち上げるきっかけは祖父の介護でした。と小倉さんは振り返る。毎年旅行に行くほど旅好きだった祖父が要介護認定を受けた後、一緒に旅をしようとして対応できる会社がなく悔しい思いをした。そ

で、下見もせず自分で徳島の神社に連れて行き、長い階段を祖父に上らせてしまった。ところが、一段一段手すりにはがみつきながら上がり終えた祖父は、神主さんと一時間ほど立ち話さえた。旅はリハビリになる」と感じた小倉さんは、会社を立ち上げる意志を固めた。小倉さんは、その時の感情を「魂が震えた」と表現する。

お客様に合った旅を
手配する
「しゃらく旅倶楽部」

くも膜下出血で倒れ、寝たきりになった母親を結婚式に連れてきてほしいという依頼があった。血のつながった親族は母だけ、母への手紙を聞いてほしい」という娘さんの思いを叶えたくて依頼を受けた。

結婚式当日、祝福の言葉や来賓者へのお礼を述べたいのに言葉ない母親。そのせいか娘の晴れ姿を

直視しようとしていなかった。いよいよ、母への手紙を読むときがきて「お母さんへ」と始めるが、新婦はもうすでに泣いている。手紙を読む娘に母親はそれとなく、でも確かに目を向けていた。

新郎新婦退場後、母親を新婦のところに連れて行った。娘さんは感慨無量になり「お母さん、来てくれてありがと」と言っ、大きな声で泣き出した。その時、右半身麻痺の母親の左目からは涙が流れていた。「僕の歴史に残るくらい感動的なシーンでした」と小倉さんは語る。

将来的には「実家が里親としていた関係で児童福祉にも携わってきたい」と、まだまだ大きな目標を掲げる小倉さん。若くエネルギーのある活動にこれからも期待したい。

特定非営利活動法人しゃらく
☎078-735-0163(しゃらく)
☎078-731-2251 (Next)
FAX078-735-0164
ホームページ
http://www.123kobe.com

地域を駆ける！
ワーカー物語

まちづくりへの思いをつないで育んで

今号は三木市社協の坂本幸枝さんのワーカー物語をインタビュー形式でお伝えします。

ワーカーとしての原点は？

学生時代のキャンプリーターとしての経験です。当時から三木市社協のボランティアセンター(以下、ボラセン)に出入りしていて、ボランティアが心地よく活動が続けられる支援ができればと、市社協に就職したのがワーカーとしての出発でした。自分のボランティア経験を原点到活動者の悩みや求めているものを理解しようと思い掛けています。

住民と向き合う中で一番印象に残るエピソードは？

学校の中だけで体験できない学びや活動を、地域で展開する「ジュニアボランティアメイト」と、青年層のグループ「ボランティアクラブ365」の活動転換にかかわったことです。きっかけは、学校での福祉学習を

担当したことでした。授業だけでは時間や人数の制約があり、車いす介助や点字、手話の体験だけに終わる福祉学習に疑問を感じました。何とか今までのやり方を変えたいと思い、ボランティア体験事業として社協で取り組んでいた2つのグループ活動の進め方を子どもたちと一緒に見直しました。

どちらも自分たちで地域の課題を探り、できることを真剣に考えます。特に「ボランティアクラブ365」は、さまざまな思いを持つ若者たちが集まり、意見をぶつけながら合意形成していきます。そんな経験を乗り越えて成長するメンバーの姿もあり、ボランティア仲間との協力や活動の達成感を体験できる機会となっています。

初期メンバーはもう社会人。教員になったり、



ボランティアクラブ365のメンバーと坂本さん

介護や看護の現場で活躍したりしている元メンバーの話や、人とかわる大切な仕事で頑張っているんだと感慨深いものがあります。今でもボラセンに寄ってくれるメンバーもいます。何か困った時に気軽に立ち寄れるボラセンでありたいなと思います。

今、ホットな活動&力を入れている活動は？

「被災地寄り添い応援プロジェクト」で、被災地のニーズに寄り添い、三木市民の被災地への応援の気持ちをつなげる活動をしています。これまで、保育園に絵本やおもちゃを届けたり、民生委員の訪問活動時に被災者へお渡しする生活必需品を届けたりしました。また、市民が主体となつて、地域の課題を探し、活動を考える「地域の課題探しワークショップ」にも取り組んでいます。テーマは「災害」が多く、災害時要援護者支援の防災マップ、住民による避難所運営

を受けたこと、預かったことは、できる範囲内で精一杯取り組むことです。

ワーカーとして大切にしていることは？

活動者の思いに寄り添い、自ら楽しく活動するエネルギーと地域の課題とをうまく結びつける坂本さん。その役割がワーカーとしてとても大切だと感じました。

取材を終えて

生活者の思いに寄り添い、自ら楽しく活動するエネルギーと地域の課題とをうまく結びつける坂本さん。その役割がワーカーとしてとても大切だと感じました。

福祉の相談窓口



このコーナーでは、暮らしに役立つ福祉の相談窓口を紹介します！

第14回

教えて！

生活福祉資金の借り受け世帯に対する相談支援は、貸し付けを行うまでの手続きの中で実施されるだけではない。生活福祉資金の中でも教育支援資金や総合支援資金などは、貸付期間が数か月から数年にかけて続くため、その期間のうちで在学確認や就職活動報告を受けるなど、借り受け世帯の状況を把握する機会を設けている。これらの機会に面接を行うなど相談支援の場として活用することも一つの支援である。

また、総合支援資金の借り受け世帯に対する新たな取り組みを実施する社協もある。

就労に向けた新たな取り組み

5月のある日、総合支援資金の借受人Aさんは、宝塚市社協を訪れた。この日のAさんは、スーツにネクタイ姿、髪

生活福祉資金の相談窓口② 貸し付け中の支援

型も整え、ビジネス用の鞆を手に掲げていた。少し緊張した面持ちのまま、指定された部屋のドアをノックして入ると、そこで待ち受けていた2人の面接官はAさんに対面する席に座るよう促した。着席したAさんは自分のこれまでの経歴を説明し始めた…。

これは、宝塚市社協で実施されている「模擬面接会」の様子である。この会は、同市社協が取り組んでいる総合支援資金の借受人によるグループ活動の一環として行われたもので、借受人が、実際の就職活動の中で行われる面接で少しでも好印象を与えられるようにと実施されたものである。面接官は同市社協職員と宝塚市役所の就労支援員が務め、実際の採用面接と同じような手順を踏んで模擬面接が実施される。面接後は面接官役を務めた職員から改めて評価が行われ、「緊張しすぎていた様子は好印象には見えませんが、本人に伝えられる。」

この取り組みは同市社協でも始まっ



総合支援資金の借受人への模擬面接会(宝塚市社協)

ばかりで、この日も参加者は2人と決して多くはないが、過去に模擬面接に参加した借受人で就労に結びついた者も出てくるなど、効果は表れ始めている。

生活福祉資金が活用されるために

生活福祉資金は、この資金を利用することによって生活が安定的に立て直され、償還が行われていくことを見込

んで貸し付けを行っている。こつこつした見込みを堅実なものとするために、これまでも民生委員が大きな役割を担ってきた。近隣の身近な関係の中で見守りを行う民生委員は、世帯のわずかな変化も迅速に見出し、貸し付けや償還の促進につなげることができた。しかし、マンションなどの住環境の変化や、単身世帯の増加など地域の様相が変化する中で民生委員の見守り活動が困難となっている。生活再建をより確実なものにするには、従来の見守りを中心とした活動以外にも支援の方法を組み立てる必要性が高まっているといえる。

生活福祉資金はこれからも必要とされる制度であり、制度が安定的に運営されていかなければならない。貸し付けから償還へという循環を機能させるためにも、これまでのように社協の窓口相談に訪れる人をつつただけではなく、相談に行きたいと感じさせるような仕掛けづくりにも取り組むべきではないだろうか。

三木市社会福祉協議会 さかもと さちえ 坂本 幸枝さん

Personal History

- 24歳 三木市社協に入局
- 24歳 「ジュニアボランティアメイト」、「ボランティアクラブ365」の支援
- 33歳 「地域の課題探しワークショップ」をスタート
- 35歳 1児のママ目線で地域を見つめ、子育てママだからできる地域活動を模索中



平成22年度県社協の事業・決算報告

5月30日、本会理事会・評議員会にて平成22年度の県社協事業報告と決算が承認された。
22年度の特徴的な取り組みと収支概要は次のとおりである。

■「兵庫県社協2015年計画」の策定

社会福祉士による地域福祉ビジョン会議と「局内プロジェクト会

議を設置し、「2015年計画」を策定。全県スローガン「認め合い」ともつながり「支え合う みんなでつくろひょうご」の福祉」を掲げ、県民参加の地域福祉を推進する。

■新・福祉センターへの移転

新しい県域の地域福祉拠点として福祉センターが完成し、1月に移転。

一般会計・公益事業特別会計資金収支計算書

(単位：千円)

区分	収支	一般会計	公益事業
経常活動による収支	収入	635,209	2,385,995
	支出	559,305	1,681,399
経常活動資金収支差額		75,906	704,595
施設整備等による収支	収入	0	0
	支出	990	2,092
施設整備等資金収支差額		△990	△2,092
財務活動による収支	収入	429,669	2,130,961
	支出	450,994	2,824,899
財務活動資金収支差額		△21,324	△693,937
予備費		0	0
当期資金収支差額合計		53,591	8,565
前期末支払資金残高		215,083	517,417
当期末支払資金残高		268,675	525,983

その他の特別会計収支計算書

(単位：千円)

会計	収支	一般会計
生活福祉資金特別会計	収入	10,326,694
	支出	5,879,595
	繰越金	4,447,099
生活福祉資金(災害)特別会計	収入	132,077
	支出	83,831
	繰越金	48,245
生活復旧資金特別会計	収入	177
	支出	146
	繰越金	30
要保護世帯向け不動産担保型生活資金特別会計	収入	40,431
	支出	30,871
	繰越金	9,560
生活福祉資金貸付事務費特別会計	収入	270,727
	支出	261,546
	繰越金	9,180
臨時特例つなぎ資金貸付事業特別会計	収入	611,127
	支出	186,622
	繰越金	424,505

■東日本大震災の被災地支援活動

3月11日に発生した「東日本大震災」の対応として、3月12日に「東日本大震災 災害救援本部」を県社協内に設置し、支援活動を開始。宮城県内の災害ボランティアセンター支援、生活福祉資金特別貸付のため、県内市町社協と職員派遣を行ったほか、ボランティアバスの運行等による支援活動を実施した。

※事業・決算報告の詳細は本会ホームページにて掲載しています。

URL <http://www.hyogo-wel.or.jp/>

大韓民国慶尚北道社会福祉協議会から義援金

本会と友好協定を結んでいる大韓民国慶尚北道社協の朴珍佑(パクジンウ)会長と宋美虎(ソンミホ)副会長が5月26日に来日し、慶尚北道内で集められた募金38万円を「東日本大震災兵庫県募集委員会」に贈呈した。
募金は本会の武田会長立会いのもと金澤副知事へ手渡され、慶尚北道社協には副知事から謝辞とともに感謝状が贈呈された。



慶尚北道社協の朴会長から兵庫県金澤副知事へ手渡される義援金

第4回 高齢者の食生活と仲間づくりを応援

大池地域友愛サロン(神戸市北区)



新しいレンジが入って調理も充実!

※希望くん 今日(昨日)は昨年度に、共同募金の配分金を活用した「小地域福祉活動拠点事業」を紹介するわね。
※希望くん 「小地域福祉活動」といえば、全体的に進めている地域福祉の骨格事業だね!
※希望くん そうね。共同募金会では、昨年度県内33か所の小地域福祉活動拠点へ資金面での応援をしたの。
※希望くん たくさんあるけど、どんな活動をしている拠点があるのかな。
※希望くん 例えばね、神戸市北区の「大池地域友愛サロン」では、高齢者の方々が集まって楽しくおしゃべりできるふれあい喫茶やふれあいサロンなどの活動を活発にされているの。それに高齢者の給食会も昭和59年からずっと続いているのよ。
※希望くん もう27年も続いているんだね!その頃から比べると、今は

もって高齢化が進んでいるよね。
※希望くん そうね。団地の600世帯のうちひとり暮らしの方は286世帯になつていて、75歳以上の高齢者の方は103世帯にもなつてしまつたよ。
※希望くん ひとり暮らしの方が多から、地域のつながりや支えが必要なんだね。それで、共同募金はどんなふうに役立っているのかな?
※希望くん 調理に使う電子レンジが購入できて、給食やふれあい喫茶の料理レパートリーが増えたそうよ。それだけでなく料理教室でも大活躍で、高齢者の方々が集まって楽しめる機会がずいぶん増えたって。
※希望くん なるほど。小地域福祉活動拠点としての役割は、地域で住民同士が顔を合わせて一緒に活動できる場所にもなっているんだね。小地域だからこそできる「地域の輪」の役割だね!!
※希望くん 本だね。大切な募金をこれから地域に身近なところで役立てていきたいわね。
「平成23年度 小地域福祉活動拠点整備事業」の受配要請を受け付けています。締切り：平成23年7月8日(金)詳しくは各市区町共同募金委員会まで。

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

点字・録音図書を貸し出し

兵庫県点字図書館

兵庫県点字図書館は県が設置する施設で、視覚障害者のために無料で点字や録音図書の貸し出しを行っています。運営は、財団法人兵庫県視覚障害者福祉協会(※)が行っています。

点字図書や録音図書は点訳ボランティアグループ(「のじきく会」)、「西宮中公文庫グループ」など、音訳ボランティアグループ(「声のあけぼの」)、「そよかぜ」などのご協力で製作しています。

また、点字図書館では蔵書の閲覧や音声ガイド付パソコンの利用、対面朗読サービスの利用もできます(要予約)。ご希望の方には兵庫県広報誌の点字版またはテープ版を定期的にお送りします。多くの方のご利用をお待ちしています!

※昭和21年に視覚障害者が設立した団体で、点字図書館の管理のほか点字出版、白杖や拡大読書機などの日常生活用具のあっせん、会員の交流事業も行っています。

連絡先

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号 兵庫県福祉センター 2F ☎078-221-4400

アピールしたい活動の情報を教えてください。

お問い合わせ先

兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細については、それぞれの問合せ先にご確認ください。

財団法人 みずほ福祉助成財団 第31回社会福祉助成金

障害者の福祉向上のための先駆的・開拓的の事業や研究に対して助成を行います。

対象 社会福祉法人、非営利活動法人、任意団体、共同作業所等または3人以上で構成の研究グループ(営利法人と個人は除く)

対象事業 障害児者に関する事業および研究(研究助成については「社会福祉(ソーシャルワーク)に関する研究」も可)

助成金額 事業助成 1件15万円以上100万円 限度、研究助成 150万を限度

締切り 平成23年7月末日

④財団法人みずほ福祉助成財団 事務局 TEL03-3201-2442

URL <http://homepage3.nifty.com/mizuhofukushi/>

財団法人 松翁会 第26回 社会福祉助成金

社会福祉に関する民間の事業、研究を対象に助成します。

対象 事業助成は法人施設、団体、研究助成は法人施設、団体、研究グループで、ともに以下の基準を満たすこと①社会福祉の向上を目的とした企画である②明確な企画(目的、内容、資金使途等)に基づく事業で具体的な計画を持つこと③推進体制が確立しており、自己資金の調達に努力をされていること

助成金額 1件上限80万円(総額1,000万円)

締切り 平成23年7月31日(日)消印有効

④財団法人松翁会 事務局 社会福祉事業部 助成係TEL03-3201-3225

URL <http://shouhoukai.or.jp/>

財団法人 ユニベール財団 研究助成

「豊かで活力ある長寿社会の構築をめざして」を基本テーマとした研究に助成します。

対象 大学、研究所、研究機関、教育機関等において研究教育活動に従事されている方、大学院修士課程、または博士前期課程に在籍される方、ならびに修了された方、またはそれと同等以上の資格もしくは能力を有する方

助成金額 原則1件上限100万円、1年間

締切り 平成23年7月29日(金)必着

④財団法人ユニベール財団 TEL03-3350-9002

URL <http://www.univers.or.jp/top.html>

社会福祉法人 清水基金 「一般助成事業」

対象 障害児・者の福祉の増進を目的とする施設を経営する社会福祉法人を対象に、施設福祉および地域福祉に必要な建物・車両・機器などの整備事業、同上施設が行う、在宅福祉サービス等地域福祉活動推進のための機能整備事業

助成金額 1件50万円以上700万円以内(申し込み法人が事業費の30%以上50%未満を負担)

締切り 平成23年7月31日(日)必着

④社会福祉法人 清水基金 TEL03-3273-3503

URL <http://www.1a.biglobe.ne.jp/s-kikin/>

財団法人長谷川福祉会 平成23年度助成事業

障害者を対象とした社会福祉活動のための施設の建設、修理、改造および備品等の購入に対して助成します。

対象 主に障害者を対象とした施設・団体(法人格は問わない)

助成内容 ①障害者を対象とした社会福祉活動のための施設の建設、修理、改造および備品の購入に対する助成②障害者を対象とした福祉団体、ボランティアグループなどが行う社会福祉活動に対する助成

助成額 ①建設、修理、改造:1件上限500万円/備品購入:1件上限50万円②1件上限50万円

締切り 平成23年7月20日(水)

④兵庫県社会福祉協議会 福祉事業部 TEL078-242-4635
 ②兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部 TEL078-242-4634

URL <http://www.hasegawafukushikai.jp/>

研修・イベント

介護支援専門員受験準備講習会

本年度、介護支援専門員の受験資格を有する人への受験対策として必要な知識習得を目指して講習会を開催します。

日時 平成23年8月6日(土)・7日(日)

会場 兵庫県福祉センター 2階 203室

対象 介護支援専門員資格試験の受験対象者

定員 90名(先着)

受講料 会員4,000円、非会員8,000円

④社団法人兵庫県老人福祉事業協会 TEL078-291-6822

URL www.hyogo-kenroukyo.jp/

相談窓口

東日本大震災ボランティア インフォメーションセンター・兵庫

東北各市町村の災害ボランティアセンターから情報を集め、ボランティアに行く際に必要な最新の情報を提供します。

TEL078-360-0068(9:00~17:00)

東日本大震災 被災者 「こころの相談ダイヤル」

TEL0120-760-222

(毎週月曜14:00~20:00)

期間 平成23年6月6日~平成24年3月末

行事予定

- 7月 1日 福祉事業推進部会◆県福祉センター
- 5日 法人スキルアップ研修 ◆県立のじぎく会館
- 7~8日 介護の仕事、魅力“再発見”セミナー(Bコース)◆OAAはりまハイツ
- 8日 民間社会福祉事業職員退職年金 共済運営委員会◆県福祉センター
- 11~12日 医療扶助・介護扶助事務担当者研修◆社会福祉研修所
- 12日 経営協第218回理事会 ◆県福祉センター
- 19日~ 保育ゼミナール(全4回) ◆社会福祉研修所
- 19~20日 生活保護査察指導員研修 ◆社会福祉研修所
- 21~22日 相談面接技術研修初級(Aコース) ◆社会福祉研修所
- 26日 兵庫地域包括・在宅介護支援センター協議会 総会・講演会 ◆県福祉センター
- 27日~ 介護支援専門員更新研修B・再研修 ◆兵庫医療大学ほか
- 28~29日 相談面接技術研修中級(Aコース) ◆関西学院大学
- 8月 3日・10日 レクリエーションリーダー養成研修◆神戸市教育会館
- 23日~ 中間指導者・管理者ステップアップセミナー(Aコース)(全4回)◆社会福祉研修所
- 29日~ 介護支援専門員実務従事者基礎研修◆兵庫医療大学ほか

日帰り白桃狩りツアー参加者募集

実施日 平成23年7月24日(日)

時間帯 7:30~18:30

発着地 尼崎・西宮・神戸

行先 佐用町/大ひまわり畑・桃茂実苑・掛保の糸・そうめんの里など

人員 45名限定

旅行代金 7,800円

※詳しい資料をご希望の方は送付させていただきます。

申込み・問合せ先 名鉄観光サービス株式会社 神戸支店 ☎078-321-5005



1個もぎ取りと 事前にご用意した 4個をあわせて 5個の土産付!

不用品を片付けて、よりよい介護支援の環境づくりをお手伝い。

Relief リリーフ

お部屋の 片付け

不用品 処分

お部屋の 清掃

相談 お見積 無料!

リリーフへ おはやく お気軽にお電話ください。 ☎0120-112-089 電話受付9:00~21:00 携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜4丁目1番27号/株式会社 大栄 リリーフ事業部 TEL.0798-26-4455 FAX.0798-26-6981

安心の料金で信頼のサービスをご提供。詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.oatobito.jp>